

# 會 告

## 會誌體裁改善に関する件

本會は會員諸氏の會誌閱讀の御便利を圖る目的を以て明  
昭和6年1月25日發行「鐵と鋼」第十七年第一號より内容  
體裁に改善を加へ從來の一段組を二段組に変更することと共に  
印刷寫眞等を一層鮮明ならしむる様紙質をも改善致す事と相成  
候間此段謹告候也

昭和五年十二月二十五日

社團  
法人

日本鐵鋼協會

# 會 告

本會々費は定款施行細則第十七條に依り半ヶ年分前納のことに相成居候に付來る  
昭和六年上半期分會費集金に各位の御便宜を計り來る十二月初旬より集金郵便差上  
可申候間此際何卒御拂込成被下度此段豫め御依頼申上候 敬具

追而御送金後に集金者參上の際は其旨御申聞被下度候

正會員半ヶ年分 金四圓五拾錢也

准會員半ヶ年分 金參圓六拾錢也

# 會 告

日 本 鐵 鋼 協 會

## 第六回講演大會開催及講演者募集

先般室蘭市に於ける講演大會の際會員多數の希望有之來年度より講演大會を春秋の二回開催することと相成候に就ては來る昭和六年四月上旬通常總會を兼ね東京に於て第六回講演大會開催の豫定に有之候間萬障御繰合多數御出席相成度候

尙ほ同講演大會に多數講演者の御出場を希望致し候間御出演希望の方は下記要項御覽の上期日迄に本會宛御申込相成度候也

昭和五年十二月 日

### 應 募 講 演 者 及 演 題

- 1) 窒化鐵に含まるゝ原子狀水素に就て

三菱造船會社研究所員 理學士 佐藤俊一君

### 要 項

1. 講演申込期日は昭和6年1月31日迄とし同時日迄に演題並講演大要(2,500字以内)を本會宛御送付相成度候こと
2. 講演の詳細は本會々誌「鐵と鋼」に掲載可致も講演當日は講演者數に應じ時間に制限を設け大要のみ御講演相願ふ場合も生じ可申豫め御含置被下度こと
3. 講演の詳細を記述せる論文は以上の期日前後に不關可成至急御送附相願度こと

(上記期日前に詳細論文原稿御送附の方と雖も必ず 2,500字以内の大要は御添付被下度候)

# 會 告 日本鐵鋼協會

## 日本標準規格 私費印刷分讓の件

本會は商工省産業合理局 工業品規格統一調査會に於て決定に係る日本標準規格の内、鐵鋼關係及一般冶金關係の分下記項目の通り私費印刷し一般に實費を以て分讓する事本會役員會に於て決定し其筋の願濟となり来る 昭和六年一月より發行實施可致候に付御希望の方は下記代金前送を以て御申込相成度此段謹告候也

1. 内容、形式、寸法共 商工省御編纂 のものと同一なり。
2. 代金は 1 枚に付き 金壹錢也とす。

但し郵税は實費。第四種郵便にて 17 枚迄で 2 錢 18 以上 36 枚迄で 4 錢 其れ以上は 20 枚内毎 2 錢増しのこと。

### 本會の發行 日本標準規格目次

規格 番號	類別 番號	名 稱	決 定 年月日	商工省 告示 番 號	右同告示 年月日	枚 數	規格 番號	類別 番號	名 稱	決 定 年月日	商工省 告示 番 號	右同告示 年月日	枚 數
第1號	B 1	金屬材料抗張試驗片	大正 11.10.19	43	大正 14.3.5	2	40	H1	銅 板	大正 15.6.23	30	昭和 2.10.22	3
2	B2	針金の徑、薄板の厚及其の稱呼	"	44	"	1	41	H2	黃 銅 板	"	31	"	3
3	Z1	寸法標準數	13. 3.27	17	14.9.18	1	42	H3	アルミニウム板	"	32	"	3
4	Z2	等比標準數	"	"	"	1	43	H4	銅 棒	"	33	"	3
5	G1	鍛 鋼 品	"	9	"	4	44	H5	ネーバル黃銅棒	"	34	"	3
6	G2	鑄 鋼 品	"	10	"	4	45	H6	高力黃銅棒	"	35	"	3
7	G3	鑄物用銑鐵	"	11	"	1	46	H7	火延黃銅棒	"	36	"	3
15	G4	水管罐用繼目無鋼管	14.3.27	18	15.10.26	3	47	H8	挽物用黃銅棒	"	37	"	2
16	G5	圓罐用繼目無鋼管	"	19	"	3	48	H9	繼目無鋼管	"	38	"	3
17	G6	機關車罐用繼目無鋼管	"	20	"	2	49	H10	機關車罐用繼目無黃銅管	"	39	"	2
18	G7	一般用繼目無鋼管	"	21	"	3	50	H11	復水器用繼目無黃銅管	"	40	"	2
19	G8	瓦 斯 管	"	22	"	1	51	H12	復水器バツキング抑用繼目無黃銅管	"	41	"	1
20	G9	構造(橋梁、建築其他)用壓延鋼材	"	23	"	6	52	H13	一般用繼目無黃銅管	"	42	"	3
21	G10	造船用壓延鋼材	"	24	"	5	53	H14	銅 地 金	"	43	"	
22	G11	罐用壓延鋼材	"	25	"	6	54	K1	銅地金分析方法	"	18	昭和 3.5.28	12
23	G12	鐵道車輛用壓延鋼材	"	26	"	6	55	K2	鐵及鋼炭素分析法	昭和 2.10.3	20	4.5.13	5
24	G13	壓延鋼材の寸法及重量の公差	"	27	"	2	56	K3	鐵及鋼珪素分析法	"	"	"	5
25	G14	標準棒鋼	昭和 2.10.3	28	昭和 4.5.13	4	77	G18	罐用繼目無鋼管の寸法	3.10.18	22	5.6.2	1
26	G15	標準形鋼	"	29	"	16	78	G19	一般用繼目無鋼管の寸法	"	23	"	2
36	B 8	管用れど	大正 15.6.23	26	昭和 2.10.22		79	G 20	可鍛鑄鐵品	"	24	"	3
37	B 9	管接手れど	"	27	"		80	G 21	水道用鑄鐵管	"	25	"	4
38	G16	瓦斯管の寸法	"	28	"	1	81	H15	水道用鉛管	"	26	"	3
39	G17	銜	"	29	"		82	H16	亞鉛地金	"	27	"	2

以上の外設計上の參考及製作品規格等本會に關係するも多々あれども追ふて發行するものとす。